

(当センター事務局が公表資料を元に作成)

「平成 25 年度エネルギーに関する年次報告（エネルギー白書）」の概要 (地球温暖化関連)

- △ 世界のエネルギー起源CO₂排出量は約300億トン(2011年)、最大の排出国は中国80億トン、次いで米国53億トン。今後、新興国の旺盛なエネルギー需要により、2011年から2035年にかけて、インドが2.2倍(17億トン→39億トン)、中国が1.3倍(80億トン→102億トン)になること等から、世界の同排出量は約2割増の357億トンと予測されています。日本は人口減、技術開発等により、12億トンから9億トンへ減少すると予測されています。
- △ 東京電力福島第一原子力発電所事故により、電力の化石燃料依存度は88%(2013年度)に達し、第一次石油危機(1973年度)の80%を上回る水準でした。化石燃料別の内訳は、天然ガス43.2%、石炭30.3%、石油14.9%。
- △ 日本のエネルギー起源CO₂排出量は12億8百万トン(2012年度)。うち電力分は4億86百万トンと大震災前に比べて、1億12百万トン増加。これに対して、電力分以外は7億22百万トンと27百万トン減少しました。
- △ 大震災後、節電の定着が進み、2013年度夏季の定着節電量は2010年度比で約1,667万kWとなり、2010年度夏季最大電力需要比で9.3%に達しました。定着節電とは、ストレスが小さく、かつコストが少ない、もしくは投資回収出来る節電を意味します。

以 上